

珈琲豆のその香りは、
心の奥まで届いてくる。

フジロイダル 3kg 窯で毎日自家焙煎をしている店内には、珈琲豆の香ばしい香りと、お洒落で落ち着いた雰囲気が漂っています。千賀子さんがおいしいと思う珈琲は、焼き立て、挽き立て、淹れ立ての「3 立て」が揃っている珈琲とのこと。お客さんに提供するときは、この「3 立て」をモットーにしていると話してくれました。カウンターから見える窓から差し込む光もまた、何だか温かい気持ちにしてくれます。



ずっとここに居られる気がする。

Shimanta Time

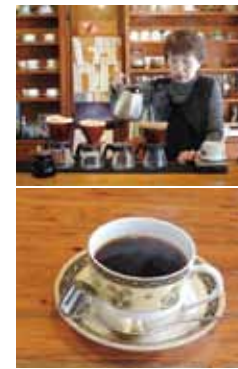
この町に流れるこの時間は、
いつも誰かを癒してくれる。

四万十町内にはゆっくりと珈琲を飲めるお店や、手作りのお菓子や和菓子を楽しめるお店が多くあります。みなさんも、ぜひこの機会に足を運び、ゆっくり流れる至福の時間を楽しんでみてはいかがでしょうか。



Talk Time

最近あった町のできごとや思っていることなど、たくさんの話に花が咲きます。珈琲を飲みながらのこのひととき。ここにいる時間がもっと好きになります。



町の魅力を再発見

四万十町では、一人あたり5,000円分の「四万十町地域応援商品券」を配布しています。コロナ禍の今、改めてわたしたちが住む四万十町の魅力を再発見できる機会にしていきたいと思い、今回の特集を企画しました。

この時間、好きだなあ。

自家焙煎の珈琲店を経営

浜口 千賀子 さん (写真⑤⑥)

JAZZの流れるお洒落な雰囲気の店内には、ピアノと絵本が置かれ、ゴールデンレトリバーのこはる君(4才)がお迎えしてくれます。「一期一会が大好き」と笑顔で語る千賀子さん。お店のオープンから今年でちょうど40年。「開店当初からずっと愛情を注ぎ続けてくださる92歳のお客様からは店を続ける力をいただいています。当時、列車の待ち時間に立ち寄ってくれた東京の大学生が彼女を連れてきてくれるようになり、結婚し、今はお父さんになって…。店を通じて、そうした姿を見られるのがとっても嬉しい。」と話してくれました。どんなことがあっても、どこかで必ず見守ってくれている人がいる。千賀子さんが淹れる珈琲は、わたしたちの心の奥まで温かくしてくれます。

Coffee
Time



この町のこの時間が、
とてつもなく幸せだ。



商品券で、町の時間を楽しむ編

